

生活習慣病予防機能性成分に特化したキメラかんきつ産地の定着化

- 1 中核機関・研究総括者
全国農業協同組合連合会愛媛県本部 脇塚 巧

- 2 研究期間
2006～2010 年度（5 年間）

- 3 研究目的

かんきつ産地では、キメラ新品種の新規導入において、高品質安定生産技術、機能性付加価値向上技術が求められている。

このため、高品質キメラ品種に対応した、早期成園化技術、高品質果実生産技術、機能性富化栽培技術を開発する。

- 4 研究内容及び実施体制

- ① キメラ新品種に対応した高品質安定生産技術の確立および形質安定に関する研究（全国農業協同組合連合会愛媛県本部、愛媛大学）
キメラ新品種に最適の生産管理技術を開発する。
キメラ特性発現に関する分子基盤を解明する。
- ② キメラ新品種の樹体特性に対応した早期成園化技術の確立（愛媛県立果樹試験場）
キメラ新品種に対応した早期成園化法を開発する。
- ③ キメラ新品種の特性である生活習慣病予防機能性成分を富化する栽培技術の確立（愛媛県立果樹試験場）
ストレス付与により、キメラ品種の成分富化栽培技術を開発する。
- ④ 生活習慣病予防機能性成分にかかる栽培ステージに対応した品質管理技術の確立（愛媛県工業技術センター、（株）えひめ飲料）
キメラ果実の発育成熟段階の成分特性を解明する。
- ⑤ 流通加工適性に対応する品質評価技術の確立（愛媛県工業技術センター、（株）えひめ飲料）
収穫果実の成分特性解析による品質評価技術を開発する。

全農愛媛県本部はコーディネート機関として、研究素材の最適な管理・供給を行い、各機関間の連携強化と効率的研究を促進する。

- 5 目標とする成果

機能性成分の発現解析および最適栽培管理技術の開発により、高付加価値キメラかんきつ果実の実用生産技術が確立される。

これにより、機能性高付加価値新品種キメラかんきつの産地が形成・定着し、かんきつ生産地域の新たな活性化が期待される。

生活習慣病予防機能性成分に特化したキメラかんきつ産地の定着化

